



やよいじだい

弥生時代の人々は、どんな服装をしていたの



おもに麻を織ってつくった、貫頭衣や袈裟衣を着
ていたんだよ。

貫頭衣や袈裟衣を着ていた

弥生時代の代表的な衣服は、大きい布の真ん中に穴をあけ、そこから頭が出るよ
うにかぶる貫頭衣です。また、1枚の布を肩か
らかけて前で結び、もう1枚の布を腰に巻いて
前で結ぶ、袈裟衣もありました。『魏志』倭人伝
には、邪馬台国の男性は、かみを結んで、頭に
布を巻き、袈裟衣を着ていること、女性は、か
みを後ろにたばね、貫頭衣を着ていることが書
かれています。布の材料は、ほとんどが麻で、
身分の高い人は、絹も着ていたようです。



袈裟衣



貫頭衣

機織りや染色が始まった

弥生時代には、縦糸の間に横糸を通して布を織る、機織りの技術が伝わってきま
した。静岡県登呂遺跡から、機織りに使う道具の一部や、織物の布片が出ていま
す。機織り機は、原始機とか居座機とよばれる、原始的なものです。あい・むらさ
きなどから取った植物染料を使った染色も、行われていました。

海にもぐる漁師は、「いれずみ」をしていたらしい

『魏志』倭人伝には、海にもぐって魚や貝をとる人は、大きい魚や水鳥を追い払
うために、体に「いれずみ」をしているが、近ごろは、かざりとして「いれずみ」
をしているようだ、と書いてあります。

ことばの意味 『魏志』倭人伝 3世紀に書かれた中国の歴史書「三国志」の一部「魏志・東夷伝」
の中の、倭人に関する文章。(中国では日本人のことを倭人とよんでいた)